



今週のポイント

TSMC(台湾積体電路製造)の決算発表を機に米半導体関連銘柄が上昇

やはり、TSMC効果は絶大です。18日、TSMCが2024年12月期の売上高が前期比で20%増え、過去最高を更新するとの予想を発表しました。魏哲家CEOは「AI関連の強い需要が24年の当社の成長を押し上げる」と述べています。足元の業績は、3四半期連続の減収減益ですが、売上高は四半期ベースで過去最高だった前年同期の水準をほぼ回復しています。また、魏哲家CEOは24年の世界半導体市場が10%超の成長が見込まれるとし、さらに、AI向けサーバー市場は台数ベースで40%増(1,600万台超)を予想しています。

これまで、生成AIはデータセンターのサーバー上で動作してきましたが、最近は処理の一部を端末側で担い、動作を速める動きが加速しています。低迷が続いたパソコンやスマートフォン市場の回復に繋がると期待されています。TSMCの24年の設備投資計画は前年並みの280~320億ドルとしていますが、AI半導体需要増から、大幅に上回ることが期待されます。TSMCの好調な業績予想を契機に、米国株式市場では、半導体関連物色が加速しています。生成AIの中心銘柄であるエヌビディアは6.1%、半導体製造装置のAMD(アドバンスド・マイクロ・デバイス)は9.8%、通信インフラ・半導体のブロードコムが9.7%、アップルも4.9%上昇しています(17~19日までの上昇率)。SOX指数※1は7.5%上昇し最高値を更新しています。

当面は中国株から日本株への資金流入が続くものと予想される

日経平均株価は12日に付けた幻のSQ※2値36,025円を挟んでボラタイル(価格変動性が高い状態のこと)な値動きを続けています。海外投資家による主力株買いと国内投資家による利益確定売りが拮抗しています。海外投資家は1月2週に現物と先物を合わせて1兆4,000億円、日本株を買い越しています(昨年6月1週以来の規模)。現状は、米国株式市場におけるハイテク株集中相場からの分散の流れではなく、アジア株式市場における中国株回避による日本株への資金流入の可能性が高いと思われます。

先週、一部報道で、中国国内において日本株人気が加速して日経平均連動ETF※3が一時売買停止になったとされ、日経平均先物が大きく下落する場面がありました。ただ、当該ETFの純資産は135億円程度であり、中国富裕層等の資金が日本株へ流入しているわけではありません。中国景気は夏場の最悪期を脱し、安定化への動きを見せていますが、中国株市場では海外投資家による資金の流出傾向が続いています。アジア地域での海外投資家の資産配分は、従来は中国株をオーバーウェイトし、日本株をアンダーウェイトする傾向にありましたが、昨年からの動きが逆転し始めています。そして、今年に入り、中国株売り日本株買いが加速しています。今年に入り、中国株(上海総合)は4.8%下落していますが、日本株(TOPIX)は6.1%上昇しています。中国景況感のV字回復が期待できない(2023年のドル換算名目GDPは0.5%縮小)ことから、当面は中国からの資金流出、そして日本株への資金流入が続くものと考えられます。

※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

~ワンポイント用語集~

※1 SOX指数…米国のフィラデルフィア証券取引所が算出、公表している株価指数で、別名「フィラデルフィア半導体指数」とも呼ばれている。米国上場の主要な半導体関連30銘柄で構成される。半導体関連の代表的な指数とされており、日本の半導体関連株にも大きな影響を与える。

※2 SQ…「Special Quotation(特別清算指数)」の略称で、株価指数先物やオプション取引などのデリバティブ(金融派生商品)の最終的な決済に使う価格のこと。現物株と異なり、決済期日が決められている先物やオプションを満期日までに反対売買しなかった場合に、最終決済期日における指数構成銘柄の始値である「SQ値」で決済される。SQ値を見ることで、短期的な相場の強弱感を推測できるとされている。

※3 ETF…「Exchange Traded Fund(上場投資信託)」の略称。金融商品取引所に上場していて、株式のようにリアルタイムで売買できる投資信託のこと。